

Title	クオラムセンシング関連物質がPorphyromonas gingivalisのバイオフィルム形成に及ぼす影響の検索
Author(s)	朝日, 陽子
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/49236">https://hdl.handle.net/11094/49236</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈/a〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	あさひ ようこ 朝 日 陽 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (歯 学)
学 位 記 番 号	第 2 1 9 2 8 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 20 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 歯学研究科分子病態口腔科学専攻
学 位 論 文 名	クオラムセンシング関連物質が <i>Porphyromonas gingivalis</i> のバイオフィ ルム形成に及ぼす影響の検索
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 恵比須繁之 (副査) 教 授 天野 敦雄 准教授 永田 英樹 講 師 寺尾 豊

### 論 文 内 容 の 要 旨

#### 〈研究目的〉

抗菌療法に抵抗するという特性をもつ細菌バイオフィルムの抑制法として、歯科臨床においては機械的除去が行われているが、除去が困難な部位に形成されたバイオフィルムには、有効な化学的コントロール法の開発が必要とされている。細菌には、クオラムセンシング (QS) と呼ばれる自己誘導因子 (AI) を介した細胞間コミュニケーションが存在し、毒素の産生やバイオフィルム形成等に関与している。緑膿菌の AI であるアシルホモセリンラクトン (AHL) はバイオフィルム形成に係わっているが、AHL 類似化合物の一部はアンタゴニストとして QS を攪乱し、バイオフィルム形成を抑制することが報告されている。一方、慢性歯周炎や難治性根尖性歯周炎に密接に関与している *Porphyromonas gingivalis* にも AI に関連する遺伝子が存在するが、その詳細については未解明な部分が多い。そこで、*P. gingivalis* のバイオフィルム形成機序の解明とその阻害物質の探索を最終的な目標として、本研究では、AHL とその類似化合物が *P. gingivalis* のバイオフィルム形成に及ぼす影響を検討した。

#### 〈材料および方法〉

1. AHL および AHL 類似化合物 3 種類の AHL および 20 種類の AHL 類似化合物は、菅 裕明博士 (東京大学) らが既に合成し、作成した化合物のライブラリーより選択した。
2. AHL および AHL 類似化合物がバイオフィルム形成に及ぼす影響の検索
  - 1) バイオフィルムの形成 *P. gingivalis* 381 株を用い、AHL および AHL 類似化合物 (最終濃度: 10 あるいは 100  $\mu$ M) を添加した菌液を嫌気的条件下にて 14 日間灌流し、modified Robbins device (MRD) 内のハイドロキシアパタイト (HA) ディスク上にバイオフィルムを形成させた。化合物を添加しないで作製したバイオフィルムを対照群とした。
  - 2) 定量的解析、微細形態学および 3 次元的検索 バイオフィルム形成細菌の定量は、HA ディスクからバイオフィルムを剥離後、波長 550 nm で吸光度を測定することにより評価し、統計学的有意差の検討には Student *t* test を用いた ( $P < 0.05$ )。試料の一部は、走査型電子顕微鏡 (SEM) による微細形態学的観察に供した。3 次元的観察には、セルロイドディスクを MRD に装着して、上記 1) 項と同一の方法で作製したバイオフィルムを Live/Dead<sup>®</sup> Kits にて染色し、共焦点レーザー顕微鏡 (CLSM) 観察を行った。

**3. AHL 類似化合物が *P. gingivalis* に及ぼす影響の多面的解析** バイオフィーム形成実験で、添加することにより、バイオフィーム形成量が抑制傾向を示した AHL 類似化合物について以下の実験をおこなった。

**3-1) 赤血球凝集能に及ぼす影響の検索** 96 穴プレートに、赤血球と菌液、AHL 類似化合物 (10 あるいは 100  $\mu$  M) を播種し、1 時間後、沈殿の有無により赤血球凝集能への影響を評価した。

**3-2) 細胞外マトリックスへの付着能に及ぼす影響の検索** I 型コラーゲン、ラミニン、フィブロネクチンのそれぞれをコーティングした 96 穴プレートに菌体および AHL 類似化合物を播種し、37°C で 3 時間培養した後、クリスタルバイオレット溶液にて染色し、付着細菌量を吸光度 (OD<sub>570</sub>) 測定し、評価した。

**3-3) 既に形成したバイオフィームに及ぼす影響の検索** MRD にて菌液を灌流しバイオフィームを作製した後、AHL 類似化合物を添加した培地を 14 日間灌流し作用させた。経時的にサンプルを取り出し、バイオフィーム形成量を吸光度 (OD<sub>550</sub>) 測定し、その変化を評価した。

**3-4) プロテアーゼ (ジンジパイン) 活性に及ぼす影響の検索** 基質として、Boc-Leu-Gly-Arg-MCA および Boc-Val-Leu-Lys-MCA を用いた。菌液、AHL 類似化合物 (10 あるいは 100  $\mu$  M) および基質を 37°C で 1 時間反応後、分光蛍光光度計 (励起 380 nm、蛍光 460 nm) にて測定した。

**4. *P. gingivalis* の AHL 産生能の検索** AHL のレポーター株である *Agrobacterium tumefaciens* および *Chromobacterium violaceum* を用いて、いずれかの菌株を封入した寒天培地上に *P. gingivalis* の培養上清を添加し、AHL による寒天上の呈色反応により AHL の有無を測定した。

(結果)

1. 3 種類の AHL のうち、C<sub>4</sub>-HSL 添加群は対照群と比べてバイオフィーム形成量が増加し、C<sub>12</sub>-HSL 添加群は低下した。20 種類の AHL 類似化合物のうち、3 種類の化合物 (C<sub>11</sub>H<sub>12</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>、C<sub>16</sub>H<sub>32</sub>N<sub>2</sub>O、C<sub>19</sub>H<sub>29</sub>NO<sub>3</sub>) 添加群は、対照群と比較して、バイオフィーム形成量が有意に減少し、9 種類の化合物添加群はバイオフィーム形成量が有意に増加した。

2. *P. gingivalis* のバイオフィーム形成量を有意に低下させた 3 種の化合物添加群は、SEM 観察ではバイオフィームのマトリックス構造や菌体に形態的变化はみられなかったが、CLSM 観察では、対照群より、バイオフィームの厚みの減少が認められた。

3. 既に形成したバイオフィームに対し AHL 類似化合物を添加した群は、対照群と比較してバイオフィームの経時的な変化量に有意差はみられなかった。バイオフィーム形成量を低下させた 3 種類の化合物添加群は、いずれの濃度においても、*P. gingivalis* の赤血球凝集能、ジンジパイン活性ならびに付着能について、対照群との間に有意差は認められなかった。

4. レポーターアッセイでは、*P. gingivalis* の上清を添加しても、*A. tumefaciens* あるいは *C. violaceum* が封入された寒天培地の色に変化は見られなかった。

(考察)

・ 3 種類の AHL 類似化合物は、*P. gingivalis* のバイオフィーム形成量を低下させ、オーラルバイオフィームの阻害薬としての可能性が示唆された。

・ バイオフィーム形成量を低下させた化合物間に、炭素数や置換基等についての構造活性相関は得られず、3 種類の化合物全てが同じメカニズムで作用していない可能性が推察された。

・ バイオフィーム形成を阻害した 3 種類の化合物は 100  $\mu$  M 添加群においては浮遊細菌に対しても増殖の抑制を認めしたが、今回供試した化合物の中には浮遊細菌の増殖を抑制するがバイオフィーム形成量を増加させる化合物もみられ、浮遊細菌への影響とバイオフィーム形成への影響はそれぞれ異なったメカニズムである可能性が推察された。

・ バイオフィーム形成を阻害した 3 種類の化合物は、*P. gingivalis* の赤血球凝集や細胞外マトリックスへの付着および既に形成したバイオフィームに対して影響しなかったことより、バイオフィームが成長する過程で作用することが示唆された。

・ *P. gingivalis* は、AHL 産生が認められなかったが、AHL 類似化合物によりバイオフィーム形成量の変化がみられたことから、AHL を感知する機構を有することが示唆された。

〈結論〉

20 種類の AHL 類似化合物のうち 3 種類の化合物は、*P. gingivalis* のバイオフィーム形成に対してアンタゴニストに作用することが明らかとなった。

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は、細菌の情報伝達機構であるクオラムセンシングに関連する物質、アシルホモセリンラクトン (AHL) およびその類似化合物が、慢性歯周炎や難治性根尖性歯周炎の主要な原因菌である *Porphyromonas gingivalis* のバイオフィーム形成に及ぼす影響を検索したものである。

その結果、供試した 3 種類の AHL 中の 2 種類および 20 種類の類似化合物中の 12 種類の化合物は、*P. gingivalis* のバイオフィーム形成量に影響した。そして、バイオフィーム形成量に影響を及ぼした 12 種類の類似化合物中の 3 種類の化合物は、バイオフィーム形成量を減少させたが、*P. gingivalis* の付着や形成されたバイオフィームの剥離には影響せず、バイオフィームの成長期に関与していることが明らかとなった。

以上の研究成果は、オーラルバイオフィームの形成機序の解明とその阻害物質開発の一端を担うものであり、本研究は博士（歯学）の学位授与に値するものと認める。